

臼杵城散策マップ



③ 井堀櫓台石垣
城下を一望できる重要な櫓で、臼杵城内で最も規模の大きかったものです。櫓台石垣「櫓石」は、やや大ぶりですが、本面加工をせずに積み重ねられていることから、やや石積み感が残っていることが、17世紀初期のものとみられます。

② 重櫓
天保年間にも修築された櫓で、1層と2層の両方に櫓の構造が同じ「重櫓廻り」という古式の構造をしています。櫓の廻り、櫓の構造が同じ「重櫓廻り」という古式の構造をしています。櫓の廻り、櫓の構造が同じ「重櫓廻り」という古式の構造をしています。

① 古堀口と堀坂
大友時代から豊後時代として使われていた道で、外堀を沿った櫓の廻りを廻り廻って廻った決り道です。馬の廻りに廻っていることから、「馬廻」と呼ばれます。本面加工には本面をたぐ櫓がかけられ、豊後時代には「古堀」と呼ばれていました。



④ 大内櫓
17世紀初めに築かれた櫓の利便性を高めるために造られたとされています。17世紀前半に二の丸に拡張されると、大内櫓のような存在になりました。平家12年に修築された櫓が影響を及ぼした。本面の石垣は18世紀後半とみられる「豊後櫓」です。



⑤ 時鐘櫓
隠居正入家後継に造られた時鐘櫓です。元禄14年(1701)に新築された二層に修繕されるまで櫓が壊れ、臼杵城下に櫓の時を留めていました。臼杵城下の櫓の時を留めていました。臼杵城下の櫓の時を留めていました。



⑥ 厩曲櫓石垣
海軍博物館前庭の石垣は、櫓石が小ぶりであり、櫓石の間に埋め込まれた「布積み」です。19世紀前半のものとみられます。



⑦ 今櫓口(今櫓城跡)
櫓石が小ぶりであり、櫓石の間に埋め込まれた「布積み」です。19世紀前半のものとみられます。



⑧ 二の丸居銘北石垣
最大高さが約7m、現存する最も大規模な石垣です。上から3分の2は江戸中期以降に修築されたもので、下部は17世紀前半の石垣を留めています。



⑨ 二の丸居銘回廊
臼杵藩主居館跡内は、延宝3年(1683)に城主居館が修築された場所です。現在、地と通廊は全く見当りませんが、わずかにその回廊の一部が、残っています。



⑩ 近世の帯曲櫓と堀門跡
17世紀初めに今櫓口の堀門跡と、二の丸に上った。17世紀初めに今櫓口の堀門跡と、二の丸に上った。17世紀初めに今櫓口の堀門跡と、二の丸に上った。



⑪ 天守台石垣
大正時代に上半4mほどが壊れてしまいましたが、もともとは7mの高さがあった石垣でした。臼杵城内に修築された16世紀の石垣で、表面調整を行わない大ぶりの石、形状的な積み方をしている。臼杵石など豊後時代の石垣を多く伝える石垣です。



⑫ 空堀
本丸と二の丸を隔てる空堀で、大友時代からの空堀と、17世紀初めに造られた空堀があります。両者は空堀を隔て、大友時代から本丸に至る空堀として使われていました。



⑬ 本丸登城石垣
櫓門跡の登城石垣は、やや大ぶりの石を積み重ねて築かれた。17世紀前半の石垣を留めています。上部は「布積み」が施され、櫓石を留めています。



⑭ 鉄門櫓形石垣
櫓門跡は本丸の入り口となる重要な場所です。上段1.5mにおよぶ大きな「櫓石」を用いた重要な石垣です。「櫓石」は形状的な「櫓石積み」で、17世紀前半の石垣を留めています。



⑮ 武具櫓形石垣
下段部分は、形状的な「櫓石積み」が17世紀前半の特徴を留めています。上段部分は、櫓石の積み方を留めています。



⑯ 卯寅口門櫓
本丸生垣に修築された櫓で、櫓石と櫓石の間に埋め込まれた「布積み」が特徴です。1層と2層の櫓の構造が同じ「重櫓廻り」という古式の構造で半地下式となっています。



- 遺跡・大友時代の遺跡
- 遺跡時代の遺跡
- 櫓
- 櫓
- 遺存する石垣もしくは櫓跡の位置
- 石垣跡もしくは櫓跡の位置
- 池